

令和5年度 県立水海道第一高等学校附属中学校 自己評価表

目指す学校像	学校生活全体を通して、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、そこから生まれる主体的な学びを支援、正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成に資する。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
○各学年においてGTZや偏差値の向上が見られるものの、学習時間の伸びは鈍い。主体的に学習に向かうような仕掛けや授業展開などに工夫が必要である。 ○各教科学年での課外や時期ごとに配された進路行事により、進路実現率は高い。従来の学習指導に加えて、多様な進路や入試スタイルに対応できる能力を身に付ける必要がある。 ○探究学習「」について、キャリア探究部を中心に持続可能で発展的な時間となるよう実践している。 ○年間を通した面談やSCによる面談など、生徒理解、生徒支援を進めている。「海高ブランド」意識の醸成により、自ら律することができる生徒育成を目指したい。 ○学校行事や部活動において生徒主体の運営はほぼ達成できている。生徒運営へのサポートとリーダーシップ育成を援助し、さらに澁淵とした行事になるようにしたい。 ○本校教育の理解促進や生徒募集に寄与できるよう、外部連携事業の内容公開や、PVのリニューアルを含め魅力度向上を目指したい。 ○主体的な学びを引き出す日々の授業について、研修を含め組織的に改善していきたい。 ○分掌内での業務の分散により平準化を進め、働き方改革を進める必要がある。	学習指導 (教育課程)	① 生徒の主体性を育むことを第一に、学校生活全体で機会の創出を行う。	A	
		② ICT活用やグループワーク等、生徒の主体的な学びにつながる創意工夫を行い、結果、生徒が主人公である授業を常態とする。		
		③ 新設する教育ベンチャー5社と共同開発した海高式探究プログラムの整備や、復活する語学研修旅行の拡充による横断的な学びを進める。		
	進路指導 キャリア教育	④ 生徒が主体的に人生を切り拓くために最適な進路指導を生徒との共同プロジェクトとして行う。	B	
		⑤ 偏差値、国公立など従来の物差しに限らず、多様な情報と社会的見地を常に更新し、総合的な進路指導を行う。		
		⑥ 大学受験のみならずその後の社会人としての生き方をイメージできるキャリア教育を行う。		
	生徒指導	⑦ 海高生としてふさわしい身だしなみ、言動を自ら考え、実行を促す生徒指導を行う。	B	
	特別活動 キャリア・パスポートの活用	⑧ 生徒主体の、特に観る人の存在を意識した行事運営をサポートする。	A	
		⑨ Classiなどのコミュニケーションツールを活用し、生徒のキャリア形成をサポートする。		
	教育環境整備	⑩ 教室のデザイン変更試行とその分析をして、有効な方向性と活用法を議論する。	A	
	地域との連携 (保護者、地域住民等)	⑪ 常総市アグリサイエンスバレーと探究プログラム、常総市と本田技研によるAI街づくり協定と探究活動による連携を強化する。	A	
		⑫ 文化部による地域の伝統芸能取材、伝統行事の定期戦実施、ボランティア活動で地域との連携を強化する。		
	保健管理 安全管理	⑬ スクールカウンセラーの配置、いじめ対策委員会の定期的な開催など常に情報を把握することで生徒理解と問題の早期発見解決に努める。	B	
		⑭ 防災訓練、交通安全指導など各種講習の実施による生徒の危機管理意識づくりと、危機管理マニュアルの遵守と見直しにより学校安全を確保する。		
	研修 (資質向上の取組)	⑮ トップティーチャー模擬授業、コーチング研修、ダイバーシティ研修などオリジナルで必要なものをハイレベルに提供する。	A	
		⑯ 先進校視察もより深い視察が可能なプログラムを先方と調整して行う。		
	情報提供 (広報、生徒募集)	⑰ 学校説明会、学校公開日に加え、塾などへの学校説明の定期的実施、ハイクオリティなPVの制作など広報を充実する。	A	
		⑱ 課外イベントの開催、総合的な探究の時間の話題性をもとに広くマスメディアにもアプローチする。		
	コンプライアンス 働き方改革	⑲ コンプライアンス違反をゼロにする。	A	
		⑳ 臨機応変な働き方の導入により教職員の負担を軽減する。		
	授業改善について	㉑ 第2回授業満足度調査において第1回のスコア+5%の達成を目指す。	B	
三つの方針				
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成		
	「学びの方針」 (カリキュラム・ポリシー)	単位制の授業はじめ、学校生活全体で、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、生徒の興味関心を主体的な深い学びに導く		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	好奇心旺盛で、自分で考え、課題を発見し、解決のために多様な人々と協力しあえる生徒		

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	評 価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	主体的で、対話的な深い学びを 実践する。	グループワークなど生徒主体の学習を通じて、国語への関心を高める。 ①②㉑	A	B	・グループワークやICT機器の活用を通した生徒主体の学習展開を引き続き進める。 ・基礎学力の定着に関して、個に応じた対応を進める必要がある。
			ICT機器の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ①②	B		
		学習習慣の定着と基礎学力の向上に努める。	小テストや課題等によって、学習時間を充実させる。 ①②	A		
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。 ①②	B		
	社会	主体的・対話的で深い学びを実践する。	グループワークやリフレクションなど生徒主体の学習を通じて、社会的事象への関心を高める。 ①②③㉑	A	B	・ICT機器の活用、グループワークや振り返りの活動を通した言語活動の充実を引き続き進める。 ・基礎基本の定着や表現力の向上について、個に応じた対応を進める必要がある。
			授業等を通して自らの思考を、論理的に表現する力の育成を図るため、ICT機器を活用など授業の充実を進める。 ①②③⑤	B		
		社会学習のための知識基盤を形成する。	授業・課題で多様な社会的事象を取り上げ、基礎的知識、社会的な見方考え方に通じる概念の獲得、定着を図る。 ①②	B		
	数学	学習習慣の定着と基礎学力の向上に努める。	習熟度別に個別指導やグループ学習を効果的に使い分け、学習意欲を喚起し、基礎学力の確立を図る。 ①②	B	B	・基礎的、基本的な学力の定着を目指し、TTによる指導や個別指導を引き続き充実させる。 ・ICTの活用方法については、生徒の主体的な活用方法を検討する必要がある。
			年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テスト、章末テストを実施し、学習習慣と基礎学力の定着を図る。 ①②	B		
		様々な数学的な見方や考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成する。	授業時における発問を工夫し、数学と実社会との関連について考え、アウトプットする機会を多くする。 ①②③	B		
		数学のよさを知り、主体的に学習に取り組む態度を養う。	ICTやグループ活動などを活用し、数学の社会における有用性や、学んだ知識をさらに応用していく発展性などを、生徒が主体的に学べる授業を展開することで、生徒に数学のよさや面白さを実感させる。 ①②㉑	B		
	理科	生徒が主体的に考えることを重視した課題の工夫を行い、科学的な思考力・判断力・表現力を育成する。	授業内で、課題に対して、個人やグループで考え、話し合いを行う中で、生徒が主体的に資料やタブレット等の情報機器を活用しながら探究する場面を設定する。 ①②	A	B	・実験結果をまとめたり、考察を発表する場面でタブレットの有効活用を推進する必要がある。
			生徒にとってわかりやすい授業を展開できるよう、教材研究や研修、相互授業参観を積極的に行う。 ㉑	B		
	音楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。 ①②㉑	A	A	・ICT機器を活用した授業の研究を進める必要がある。
	美術	感性や想像力を働かせ、造形的な視点を持ち、生活や社会の中の美術や美術文化と関わる能力を育成する。	生徒一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、表現する活動を展開する。 ①②㉑	A	A	・授業の手順を今以上に明確化していく。 ・各課題で行う鑑賞活動を充実したものにする。
			よさや美しさなどを主体的に感じ取り、作者の心情や美術文化について考える見方・感じ方を深める鑑賞活動を行う。			
	保健 体育	基礎的運動能力、体力の向上を目指す。	スモールステップの設定により成功体験の機会を増やし、技能の向上と意欲を高める授業を目指す。 ①②	B	B	・体力テストの結果を見ると全体的に持久力が低いため、次年度以降も体力の向上を図る必要がある。 ・体の動かし方やゲームの中での動きのポイントをさらに意識して取り組む活動を推進する。
			ICTの活用やペアやグループなど対話的な学習を通して、思考判断を高める授業を目指す。 ㉑	B		
		主体的に体育・スポーツに関わる習慣を身に付ける。	保健の授業において、運動と健康のつながりを理解させ、運動習慣の定着の重要性を理解させる。 ①②	B		
	技術・家庭	生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の育成を推進する。	学習過程の中で生活の営みに係る見方、考え方を働かせる授業の工夫を行う。また、教材整備指針に基づいた教材の計画的な整備と定期的な保守点検を行う。 ①②⑥㉑	B	B	・各課題でPDCAサイクルを確立する。 ・実生活で活きる課題解決学習を引き続き実施する。
			生活と技術についての基礎的な理解を図り、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の育成に努める。 ①②⑥㉑	B		
	外国語	主体的に学習に取り組む態度を培い、グローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力の育成を目指す。	授業内外での実践的な活動及び4技能を統合させた言語活動を通して、コミュニケーションをとるための基本的な知識と技能の定着を図る。 ①②	B	B	・4技能を統合させた授業展開を通して、引き続き、知識・技能の定着を進める。 ・単元やまとまりを通した、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る必要がある。
			ICT機器の活用や少人数での対話的な授業展開を通して、日常的な話題や社会的な話題について情報を整理しながら英語で表現したり、伝え合ったりする力の定着を図る。 ①②㉑	A		
			授業の振り返り等を通して生徒の自らの学習を調整する力を育成し、学習サイト等を活用して主体的に学習に取り組む態度の定着を目指す。 ①②	B		

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価		次年度(学期)への主な課題
教 務	授業の充実による学力向上	「わかる授業」を展開するために授業の工夫や指導体制の改善を行い、「校内相互授業参観」週間を充実させるなど、研修体制を整える。校外で行われる研修会へも積極的に参加するように促し、授業改善へとつなげる。①②⑳	A	A	・引き続き授業の工夫や指導体制の改善に努め、デジタル機器の活用を含めた校内外での研修等の充実を目指す。 ・中高一貫校の特性を生かした教育課程の編成を引き続き進める。 ・「学校説明会」等の対面での広報活動に加え、ホームページ等の広報を充実させていく。 ・引き続き地域イベントへの参加を教育活動に繋げていく。
	適切な教育課程の編成	他の小中学校とも情報交換を密にし、生徒の学力や希望にあった教育課程研究する。魅力ある学校づくりを目指して、各教科や分掌との連携を図る。①	B		
	入試広報活動の充実	学校内外の「学校説明会」の場を利用し、小学生・保護者の本校への興味・関心を高める。小学校や塾訪問を行い、本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。⑰⑱	A		
	地域との連携を目指した広報活動	生徒の積極的な地域イベントへの参加やホームページの充実と積極的な情報発信に努める。⑪⑫⑰⑱	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	服装・頭髮指導の徹底を図るとともに、時間を守ることができる生徒を育成する。⑦	B	B	・生徒会や生活委員を中心に定期的にあいさつ運動を実施することを通して、あいさつを充実させる必要がある。 ・スマートフォンの使い方について、保護者と緊密に連携して指導する機会を設ける必要がある。
	マナーの向上(交通・挨拶等)	交通マナーアップ運動や交通安全教室等を通して交通マナーの向上に努める。⑦	B		
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通してマナーの向上とコミュニケーションの充実を図る。⑦	B		
		スマートフォンの利用のルールを設定し、校内での使い方やSNSのトラブルに巻き込まれないよう注意を促す。⑦	B		
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	高校と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。④	B	B	・高校との連携や高校進学後の進路目標に関して、引き続き、取り組みを推進する。 ・附属中内での学年間の連携を継続し、より充実させる。
		学年と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努める。④	A		
		高校進学後に多くの生徒が具体的に、高い進路目標がもてるように導く。⑤	B		
	進路情報の活用	6年間の学習成績と最終的な大学の合否がリンクした形でシステムを構築し、職員研修等を実施して、進路指導における有効活用を図る。⑥	A		
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事での生徒会の自主的、自発的な活動を尊重し、生徒が自ら考え、計画立案ができようにする。また、学校生活の充実と向上を図る。⑧	A	B	・学校生活をよりよくするという目的を明確にして、委員会活動の内容を検討する。 ・総合の学習と連携してボランティアの活動を取り入れる。 ・行事や学期の振り返りを必ず行う。
		各種委員会で校内活動を中心に、学校生活をよりよくするための活動を行う。⑧	B		
	ボランティア活動を通した社会参画	ボランティア活動を通して、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。⑨	B		
	キャリアパスポートの活用	キャリアパスポートを積極的に活用し、キャリアプランニング能力を高める。⑧	B		

保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。	⑩⑭	B	A	・生徒の健康・防災への意識増進を図る活動をより進めていく。 ・日々の清掃活動を通じて、環境美化の意識を育てる。 ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を図り、生徒の抱える課題や悩みに迅速に対応していく。 ・生徒・保護者の多様なニーズに応じた支援やその周知を図っていく。
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。	⑬	A		
		防火防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。	⑭	A		
	教育環境の美化	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。	⑩	A		
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。	⑩	B		
	メンタルヘルスケアの充実	スクールカウンセリングを定期的に実施し(年30回以上)、生徒及び保護者の精神的支援に努める。	⑤⑥	B		
		カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。	⑩⑪	A		
	特別支援体制の充実	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。	⑬⑮	A		
		学校HPやSC通信活用して、特別支援者への理解と周知を図る。	⑬⑮	B		
渉外	PTA活動の活性化による会員の連携構築と教育活動の支援 各行事の充実と地域へのアピール	本部役員を中心に会員全体が協力し充実したPTA活動の実施に努め、会員相互の連携をもって学校を支え、生徒の主体的な活動や進路実現を支援する。	①⑤⑥⑧	B	B	・PTA活動の充実と効率化の両立を図り、会員相互の協力を促進する。 ・広報活動を通じた学校 保護者 地域の連携を目指す。
		各行事等における保護者への積極的な呼びかけやHPなどを活用した広報活動により、保護者の学校への意識を高めるとともに、地域との連携や海高の広報活動に寄与する。	⑪⑬	A		
図 書	図書環境と出版物の充実	常時開放・常時閲覧を推進する。パソコンでの蔵書管理により新刊図書の紹介を円滑に行い、読書や探求学習を援助する。センターホールおよびクラス文庫の有効活用をする。『済美』の発行を行う。	⑤⑧⑩	A	A	・学校図書館利用および貸出冊数のさらなる向上を目指し、環境整備や情報提供、広報活動を活発に行う。
第1学年	学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む生徒の育成	授業や課題を通し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶことができるように、「学び方」についての学習指導を行う。	①②㉔	A	B	・忘れ物をする生徒が見られるので、スコラ手帳を活用しながら各自でスケジュールを管理するようにさせたい。 ・課題を期限までに計画的に進められるような施策を考えたい。
		スコラ手帳の活用を通し、見通しをもって自主的に学習に取り組む態度を育成すると共に、面談を定期的に行い、個に応じた助言や支援を行う。	①②⑥⑧	B		
	礼儀正しく、他者と協働することができる生徒の育成	学級活動や道徳の授業を通して、礼儀正しく生活する態度と互いの人権を尊重する態度を育てる。	⑤⑥⑦	B	B	・あいさつの声が小さくなってきているので、道徳や委員会の生徒を中心としたあいさつの啓発を行いたい。
		きちんとした返事やあいさつができ、お互いに声をかけ活動できるような集団づくりを心がける生活指導を行う。	⑦	B		
	主体的に考え、判断し、行動することができる生徒の育成	各活動を計画的に実施するとともに活動方法についての助言をし、学習・学級活動・学校行事を生徒主体で行うことができるようにする。	③④⑪⑫	A	A	・各行事がより生徒主体のものとなるように、実行委員の活動を活性化させたい。 ・探究活動については、総合的な学習の時間だけでなく、積極的に取り入れていきたい。
		各学習活動で探究学習を実施し、自分で問いを立て、考え、納得解を出せるように支援する。	③④⑪⑫	A		

第2学年	個に応じた学習指導の徹底	個別面談により進路希望を把握するとともに個に応じた学習・進路指導を展開する。 ①②④⑤	A	A	・生徒一人一人に応じた学習・進路指導を展開できている。 ・課外や補習の充実をさらに図ってきたい。
		学力に応じた課外授業や補習授業を展開することで、高い進路目標を設定させるようにする。 ①②④⑤	A		
	学習習慣の深化	それぞれの学習状況を把握し、予習・授業・復習のサイクルを徹底させる。 ①②④⑤	A	B	・成績中位層、下位層の生徒に向けて、学力向上に向けて、アプローチの仕方を工夫していきたい。
		成績中上位層に応じた学習指導を行い、学力を向上させる。 ①②④⑤	B		
		成績下位層の生徒や学習時間の少ない生徒に対して、学習意欲の高揚を図る。 ①②④⑤	B		
		課題や小テストを課すことで、主体的に学習する時間を確保する。 ①②④⑤	A		
	自律ある学校生活の育成	2学年として後輩の規範となるべく自覚を促し、学校行事やHR・生徒会・各種委員会活動に積極的に参加させる。 ⑦⑧	A	A	・委員会活動・生徒会活動などを通して、生徒の自主性を図れていた。
		保護者との緊密な連帯を図り、それぞれの進路実現に向けて生活習慣を再構築させる。 ④⑤⑦	A		
第3学年					

※評価基準 A: 十分達成できた(達成度80%以上) B: 概ね達成できた(達成度60～79%) C: やや不十分(達成度40～59%) D: 全く不十分(達成度39%以下)